

(別記様式)

令和2年度 府立久御山高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)( 実施段階 )

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>府立高校に期待される役割は、多様な生徒の個性に対応した教育を行うとともに、21世紀の日本社会を担う有為な人材を育てることである。</p> <p>本校は、久御山町内で唯一の府立高校であるという立地特性を活かし、地域・保護者に信頼され、その期待に応える教育活動を推進することが重要である。そのためには、本校が目指す文武両道教育達成のため、道徳規範や生活規律の徹底を図るとともに、自ら学ぶ学習習慣を確立し、高校教育の総和である希望進路の実現に向けた取組を全力で進める必要がある。</p> <p>1 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、教養ある豊かな人間性を育み、よりよき人格の形成に努める。</p> <p>2 一人ひとりの学習意欲を育て、確かな学力を身に付けるとともに、自己実現を目指す自立した人間の育成に努める。</p> <p>3 21世紀をリードする創造性と、よりよい社会の形成に主体的に参画する人材の育成を目指す。</p>	<p>1 「チーム久御山」としての組織力を高めるために、教職員全体の連携をより深めることが重要である。</p> <p>2 新学習指導要領への対応と、生徒に確かな学力を育成するために、授業改善を推進し教師力の向上を図る必要がある。</p> <p>3 交通安全マナーや情報モラルなどの生徒の規範意識をより一層向上させるための指導に引き続き取り組む。</p> <p>4 部活動と学習活動が両立できるよう、校内体制や指導方法により改善を加える必要がある。</p> <p>5 Classiの導入により、ICTの活用が教育活動にとって有益であることがわかった。今後その活用の方法について研究開発を進める必要がある。</p>	<p>1 個に応じたワンランクアップを目指す教育活動を行う。</p> <p>(1) ALやICT活用など、「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善を推進する。</p> <p>(2) 生徒に手帳やClassiを活用する習慣をつけさせ、生徒のより高い希望進路実現のための組織的な取組を行う。</p> <p>(3) 部活動加入率を向上させて学校の活性化を図るとともに、日々の授業に真剣に取り組む部活動と学習とを両立するといった、生徒の自己管理能力を育成する。</p> <p>(4) 配慮を要する生徒へのきめ細やかな教育相談・特別支援教育を推進する。</p> <p>(5) 自転車マナーの遵守や情報モラルを向上させ、人や社会と共生するための人間力の育成と地域社会の一員としての自覚を高める。</p> <p>2 保護者・地域に信頼される「開かれた学校づくり」を推進する。</p> <p>(1) ホームページ等を活用し、学校の教育活動についての情報提供を積極的に行う。</p> <p>(2) 「総合的な探究の時間」やボランティア活動等を通して地域とのつながりを深める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
(1) 組織・運営	学校運営体制の強化を図る。	分掌・教科間の連携を強化し、「チーム久御山」として組織的・効率的な学校運営を行い、共通理解のもとで重点目標の達成に努める。	B	B	B	▲校長の指導の下、組織的な学校運営を行うことができた。▲授業評価について今後適切な評価方法の研究開発に取り組む必要がある。
	学校評価の充実に努める。	学校評価・授業評価の結果分析や学校評議員等の意見から本校の課題を明確にし、その解決に努めることで学校改善を行う。	B	B		
(2) 教育課程の編成と実施	生徒の実態やコースの特色を生かした教育内容を研究し、充実させる。	本校の教育目標を踏まえ、新学習指導要領に沿って特色ある教育課程の編成と円滑な実施を行う。 本校のコース制や今後の高大接続のあり方を検証し、さらなる充実を目指す。	B	B	B	▲新教育課程の検討を学校全体で行うことができた。▲新教育課程実施、観点別評価の導入に向け、研究授業や授業交流、研修会等を実施し、検討を進めることができた。今後実施に向け学校全体で新課程の研究・推進体制をさらに充実させたい。▲感染症対策のため総合的な探究の時間を当初の予定通り進められなかったが、今後工夫しながら生徒の主体的な活動の機会を増やしたい。▲Classiを導入したことで、休校中の学習指導に役立てることができた。
	家庭や地域と連携し、学校全体としてカリキュラム・マネジメントを実現する。	総合的な探究の時間の取組を端緒に、久御山町と連携した教育計画を構築する。	C	C		
(3) 学習指導	学力の向上と教科の指導力の向上を目指す。	「主体的・対話的で深い学び」が日常的に実践されるとともに、パフォーマンス評価や3観点に基づく評価について議論することを通じ、より生徒の資質を向上させることができるような授業を研究する。	B	B	B	
(4) 特別活動	部活動・同好会活動を学校の特色として推進する。	部・同好会への加入率の向上(80%)を維持する。また、生徒の健全育成のために活動をより活性化させるとともに、その適切な運営に努める。	C	C	B	▲部活動加入率は、勧誘活動が十分にできなかったこともあり73.8%にとどまった。▲部活動に様々な制限があったが、各部とも活発に活動をでき、全国大会、近畿大会へ複数の部が出場を果たした。
	生徒会を中心とした生徒の自主的・実践的な活動の活性化を図る。	学校行事を通じて学年やクラスの集団作りに努めるとともに、積極的な委員会活動やボランティア活動を推進することにより、「共助」の精神を育む。	B	B		
(5) 生徒指導	自ら律する力をつけた生徒を育成する。	校訓である「自学・自律・自鍛」及び共助の精神について、教育活動を通して実践する能力と態度を養成する。	B	B	B	▲生徒会活動は校内外での活動を意欲的に行ったが、今後外部への発信を積極的に行うとともに、組織や規約を整備する必要がある。▲特別指導5件、いじめ事案1件
	問題行動を起こさせない生徒指導を行うように努める。	警察との連携を深め、交通安全指導等、指導内容を充実させ、特に自転車利用を中心とした交通ルールの遵守やマナーの向上を図る。 挨拶や言葉遣いなどの日常的なマナー指導を通じて、規範遵守の意識を向上させる。	B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
	防犯体制・防犯教育の充実を図る。	緊急時の対応体制の確立、日常の校門指導(遅刻等)、貴重品管理の徹底(盗難防止)等の指導体制を継続し実行する。 防犯教育の一環として、薬物乱用やSNS等を介したサイバー犯罪の危険性を理解させ、安全確保の意識と緊急時の適切な行動の実践力を育成する。	B C	B	B	があり、1年生への年度当初の指導が十分に行えなかった影響が考えられる。▲警察署との連携を積極的に行い、生徒やその保護者に対し適切に対応できたが、軽微な事象(SNS等)が発生しており、規範意識の向上に向けてさらなる指導が必要である。▲盗難が数件発生しており、危機意識の向上と自己管理の徹底、学校の指導体制の見直し等、盗難防止に向けた具体的な取り組みを進めていかなければならない。▲交通マナーについて外部より指摘があり、教員が対応した。警察や地域とも協力しながら、登下校指導を中心とした生徒の意識向上の取組を推進する必要がある。
(6) 進路指導	発達段階に応じた3年間の系統的なキャリア教育を推進する。	3年間を見据えた進路計画を作成し、各学年部と連携して早期の進路目標の設定を促し、適切な進路実現を図る。	B	B	B	▲Classiを導入したことで、休校中も含め指導に役立てることができた。▲入試動向の超安全志向が続き、生徒の進路実現が難しくなっている。早期から学力をつけさせる指導を学校全体で組織的に取り組む必要がある。
	主体的・探究的に学ぶ学習習慣を育成する。	動画による学習システムを有効に活用するための取組を実施するとともに、小論文や面接等の指導を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る。	B	B		
	進路情報の収集・整理・管理を適切に行い、生徒・保護者・教職員に発信する。	進路指導部だよりや進路の手引きの活用を推進したり、保護者進路説明会や面談で資料を提供したりするとともに、大学入試改革についての教員研修会を実施し、学校としての対応を検討する。	B	B		
(7) 人権教育	特別支援教育の充実を図る。	関係分掌間や特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー等の連携を図り、支援の必要な生徒の実態把握と、早期からの適切な対応に努める。	A	A	B	▲学校生活への適応に課題のある生徒が増えてきたが、教員間やスクールカウンセラーとの連携をとりながら対応できた。▲いじめアンケートやいじめ対策会議を実施し、課題に対応できた。▲人権学習を計画的に行うことができた。
	人権意識の高揚を図る。	日常生活の中で他人に配慮する姿勢を身につけさせ、「暴力・いじめ」を絶対に許さない気運を醸成する。 各分掌と連携して計画的に人権学習を実施することで、生徒がより高い人権意識を持つように努める。	B B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
(8) 図書館指導	図書館資料や設備を充実し、その活用を図る。	長期的視野に立って、図書館資料の充実を図る。 生徒がコンピューター検索により、自主的に必要な書物・資料を探すことができるよう指導、啓発する。 図書館資料を活用した取組を充実させる。	B	B	▲生徒1人あたりの貸し出し冊数1.7冊(1月末)。(昨年度は年間2.1冊)。今後広報活動や他分掌・教科・部活動との連携を通じて入館者の増加を図りたい。▲「朝の読書」を効果的に進めるため実施方法等について今後検討を進めたい。▲老朽化した機材等の更新が必要である。
	読書の推進を図る。	読書推進の取組を充実させることで、貸出冊数の増加(年間一人当たり3冊)をめざす。 朝の一斉読書の充実をはかる。また、生徒の読書についての意識や興味などのアンケート調査を行い、読書推進の参考とする。	B		
	視聴覚教室等における視聴覚教育を円滑に推進する。	視聴覚教室や図書部保管の機器類を適正に管理整備し、視聴覚教育を円滑に推進するとともに、生徒に視聴覚教室の使用マナーを徹底する。	B	B	
(9) 健康・安全	健康・安全管理の徹底を図る。	学校保健計画に基づき、適切な健康診断、健康調査、事後指導、健康相談を徹底する。 学校安全計画に基づき、学校環境の整備、衛生・安全面に関する定期点検を行い、改善に努める。	B	B	▲感染拡大にともない、健康診断は10月に実施した。学校医からの指導・助言を受け感染防止策をとりつつ円滑に進行することができた。▲1年の薬の使い方講演会では薬物乱用防止の内容も取り入れ生徒の意識向上を図れた。熱中症対策講座はクラブ員に有益であった。▲課題のある生徒に対して教育相談会議等で連携して対応できた。
	健康安全教育・環境教育の充実、推進を図る。	薬物乱用防止教育を徹底し、熱中症対策講座等の予防教育などの健康教育を推進する。	B		
	特別支援教育・教育相談活動の充実を図る。	各分掌との連携を密に、特別支援教育及び教育相談会議を有機的に機能させるとともに、スクールカウンセラーの効果的な活用を図る。	A	A	
(10) 研究・研修	今日的教育課題を解決するための研究・研修に努め、教育職の専門性を高める。	次期学習指導要領に向けた指導方法の工夫や学力向上のための研究をするなど、教職員の資質能力の向上による学校全体の教育力向上に努める。	B	B	▲新学習指導要領実施に向けたもの、ICTに関わるもの、服務規律や人権問題に関わる研修など今日的課題に沿った研修を実施した。▲今後も服務規律に関わる研修は継続して実施したい。
	服務規律の確保に努める。	服務規律を確保するため、あらゆる機会を通じて啓発する。	B		
(11) 安全管理	施設設備の安全管理の徹底に努める。	施設・設備の定期的な点検を実施し、不良箇所等の早期発見・早期対策に努める。	B	B	▲安全面での問題箇所は随時対策を講じているが、老朽化している所もあり、今後も改善を進める必要がある。▲感染症拡大の影響で避難訓練を実施できなかった。今後実施方法を工夫して行う必要がある。
	災害時の対応について、万全の対策を整備する。	防災教育を充実させるとともに、災害発生時の対応について外部機関と連携して整備を図る。	C		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
(12)情報・文書管理	校内の情報・文書管理の効率化・安定化を図る。	生徒情報・文書管理に関する運用管理システムを整備し、効率的な運用を行い、教育活動に活用する。	B	B	B	▲ICT機器を活用した学校説明会等の広報活動を行うことができた。 ▲今後ICT機器を有効に活用するために校内ネットワーク環境の整備を行う必要がある。▲Classiを活用した保護者への情報発信を進めることができた。▲コロナ禍の中工夫をしながら他校種との連携を進めることができた。▲今後もより一層学校の特色を広く広報する必要がある。
	文書業務・成績処理の効率化・正確化を図る。	校内LANの管理運営、サーバーの管理運営等、ICT関連の情報システムを構築し、効率的に運用する。	B	B		
(13)開かれた学校づくり	広報活動（情報発信）を積極的に行う。	ホームページの定期的更新を図り、タイムリーな情報を提供する。また、Classi等を活用し、家庭への情報発信に努める。	B	B	B	
		迅速に広報資料を作成・配布し、中学校等の訪問を積極的に実施したり、学校説明会をより充実させたりして、本校の教育活動の周知を図る。	B			
(14)家庭・地域との連携	家庭や地域社会との連携の強化に努める。	家庭・地域社会との適切な連携に努めるとともに、近隣のこども園・小学校・特別支援学校等との連携事業の充実を図る。	B	B	B	

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の制約の多い中で、工夫をしながら教育活動を継続できたことは評価できる。今後感染症対策に留意しながらさらに工夫を重ねて教育活動を行っていただきたい。</li> <li>・自転車乗車マナーの指導については、地域と連携して引き続き取り組んでいただきたい。</li> <li>・Classiの導入は生徒・保護者にとって有益であった。今後さらに教育活動に活用できるよう研究開発を進めていただきたい。</li> <li>・教育のICT化が進行する中で、研修等で教員の指導力を高める必要がある。また、生徒の情報リテラシーを向上させる指導もますます求められることになる。</li> </ul>
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が苦勞を厭わず、自らを成長させようとする態度を育成するよう努める。</li> <li>・交通安全、情報リテラシー等社会のモラルやマナーについて主体的に学ぶ機会を設定し、意識の向上を図るとともに、地域と連携した指導を推進する。</li> <li>・久御山町を対象として地域の学習を通して、生徒の探究的な学習を推進する。</li> <li>・ICTを積極的に活用し、生徒の生きる力を涵養するとともに、地域に向けた情報発信に努める。</li> </ul>
-----------------------	--